

専門アドバイザー通信



生徒の実態把握～アセスメント～が支援の鍵

「実態把握（アセスメント）」は、適切な支援を行うための最も重要な土台です。高校生になると、人間関係が複雑化しはじめる上に、進路選択を迫られるなど、多くの変化や課題に直面します。そのため、高校生の年代は精神的に不安定になりやすい時期と言えます。



1. なぜ「実態把握」が支援の鍵なのか？

見えにくい課題の発見

経済的困難、家庭内問題（ヤングケアラーなど）、軽度の発達障害や精神的な不調は、表面的な行動だけでは気付けないことが多くあります。



ミスマッチの防止

生徒の「強み」や「苦手なこと」を正確に知ることで、本人の特性に合わない進路指導や、的外れな声かけを防げます。

早期対応の実現

不登校や中途退学の兆候を初期段階でキャッチし、深刻化する前に手を打つことができます。

2. 具体的な実態把握の手法

一つの方法に頼らず、複数のデータを組み合わせる「多面的な評価」が有効です。



日常的な観察

挨拶の声のトーン、服装の乱れ、授業中の表情、昼休みの過ごし方などを教職員が連携して観察・記録します。

面談・対話

定期的な二者面談だけでなく、日常の雑談から「本人の本音」や「困りごと」を引き出します。

客観的なツールの活用

心理検査、標準化された学力テスト、アンケート調査等を用いて、数値やグラフで客観的に状態を把握します。

情報の共有

担任、教科担当、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラー、専門アドバイザーなどが、それぞれの視点で得た情報を集約します。

3. アセスメントを支援につなげるステップ

実態を把握した後は、以下のプロセスで具体的な支援を組み立てます。



背景の分析

「なぜその行動が起きているのか」の理由（背景）をチームで分析します。

適切な環境調整

席替え、課題の量の調整、個別の補習、静かに過ごせる場所（保健室など）の確保を行います。

外部機関との連携

学校内だけで抱え込まず、福祉機関、医療機関、外部専門家、専門アドバイザーなどと必要に応じて連携します。

裏面に続きます

2 学期スタートです。
専門アドバイザーを
活用してください！

8 月より
邑楽館林地区の高校を
担当します。
専門アドバイザーの
藤井です。
よろしくお願いいたします。



専門アドバイザーがお手伝いできる実態把握～アセスメント～

授業参観	○要望のあるクラスの授業参観はいつでも対応します。
外部専門家活用	○臨床心理士や言語聴覚士、理学療法士、作業療法士等の専門家を高校に派遣してもらうことを依頼することができます。 専門的な視点でアセスメントをした上で、アドバイスをいただけます。
検 査 検査は本人・保護者の同意が必要です。	○WISC-IV・V、WAIS-IV、K-ABC II、Vineland-II の検査を実施できます。 (WISC-IV・V は 16 歳まで。WAIS-IV は 16 歳から。) ※WISC または WAIS と K-ABC II を組み合わせて実施できると多面的な強みや弱みを把握できます。保護者の協力が得られれば、Vineland-II も実施できるとさらに多くの情報を掴めます。

参考 検査について：生徒指導提要 274 ページより

第 13 章 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導

13.1.5 関係機関との連携

児童生徒の発達上の課題を想定するために、関係機関と連携し、検査による評価を行うこともあります。

[*135]

例えば、知的発達の水準や認知特性をみるには **WISC-IV** や **WISC-V**、認知能力と習熟度の差をみるには **KABC-II**、適応行動の発達水準を幅広く捉えるには **Vineland-II** が活用されます。



心理検査は有資格者でないと実施することができませんが、私は実施できる資格を持っています。オフィシャルな研修も受けておりますし、経験も積んでおります。安心してお任せください。

群馬県立館林高等特別支援学校 専門アドバイザー 藤井 絵美
〒374-0046 群馬県館林市上三林町197番地
Tel 0276-71-1000
<https://kankoutoku-ses.gsn.ed.jp>

電話相談、メール相談、
来校相談、訪問相談、
受け付けています。
お気軽にどうぞ。